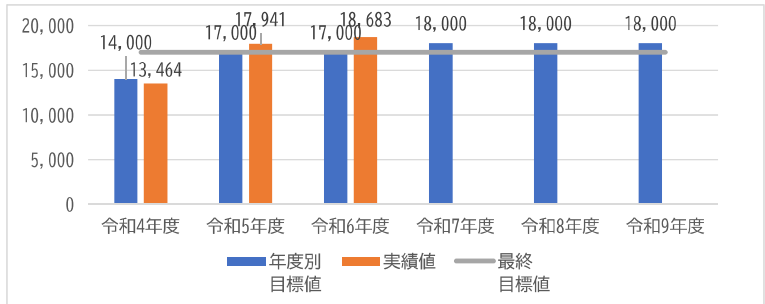


令和6年度 自己点検・評価結果について

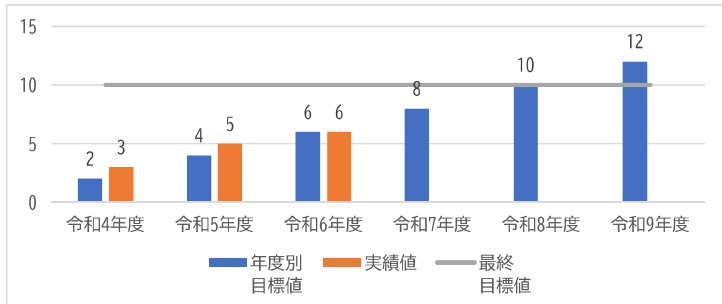
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㉔
中期計画	1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度から新たにスキルスラボの管理業務のみを担当するスキルスラボセンターを開設し、7月より専任の臨床工学技士の配置を行い、現行のシミュレータの保守点検を行うとともにラボ内で利用頻度の高いシミュレータの整備、消耗品の整理を行った。OSCE実習に併せて採血実習用シミュレータ等を複数人で使用できるように整備を行った。さらにスキルスラボ外への貸出頻度の高いシミュレータに関しても整備・管理の行いやすい様に機材庫の整備を行った。その他、小中高校生向けの医療機器体験会を開催し好評を得た。各診療科へ令和6年度の利用状況等のアンケートを実施し、利用状況により機器のレイアウトおよび令和7年度更新機器等の検討を行う。 ②令和6年度は6名(院内4名、院外2名)の特定行為研修受講生を受け入れ研修を行った。昨年度の院内研修修了生1名がフォローアップ研修を修了し、特定看護師と承認された。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行い、令和7年度は4名(院内2名、院外2名)の受講生を受け入れる予定である。継続的な広報活動を引き続き行う。 ③院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的の実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続して行っている。感染症専門医取得後の医師にも、継続して指導を行っている。令和6年度は、2名が感染症専門医を取得した。 上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価(Ⅲ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

a. スキルスラボ(※) 研修者数 (第4期の年度平均を年間延数17,000人以上)
(※) 医療従事者が各種シミュレーター、手技のトレーニングのための機器を用いて医療技術の練習・習得を行うための施設



b. 特定看護師(特定行為研修及びフォローアップ研修を修了した者) 育成数
(第4期中に合計10名以上)

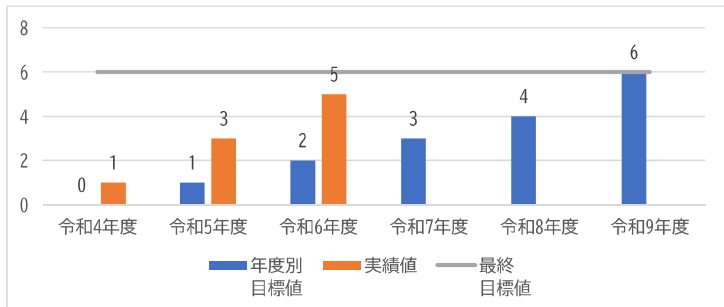


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㉔
中期計画	1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度から新たにスキルスラボの管理業務のみを担当するスキルスラボセンターを開設し、7月より専任の臨床工学技士の配置を行い、現行のシミュレータの保守点検を行うとともにラボ内で利用頻度の高いシミュレータの整備、消耗品の整理を行った。OSCE実習に併せて採血実習用シミュレータ等を複数人で使用できるように整備を行った。さらにスキルスラボ外への貸出頻度の高いシミュレータに関しても整備・管理の行いやすい様に機材庫の整備を行った。その他、小中高校生向けの医療機器体験会を開催し好評を得た。各診療科へ令和6年度の利用状況等のアンケートを実施し、利用状況により機器のレイアウトおよび令和7年度更新機器等の検討を行う。 ②令和6年度は6名（院内4名、院外2名）の特定行為研修受講生を受け入れ研修を行った。昨年度の院内研修修了生1名がフォローアップ研修を修了し、特定看護師と承認された。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行い、令和7年度は4名（院内2名、院外2名）の受講生を受け入れる予定である。継続的な広報活動を引き続き行う。 ③院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的の実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続して行っている。感染症専門医取得後の医師にも、継続して指導を行っている。令和6年度は、2名が感染症専門医を取得した。上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価（Ⅲ）とした。

(参考) 評価指標達成状況

c. 感染症分野専門の医療人（医師・看護師等）育成数 （第4期中に合計6名以上）

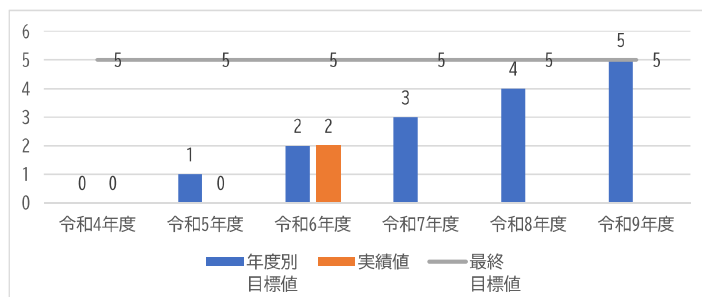


令和6年度 自己点検・評価結果について

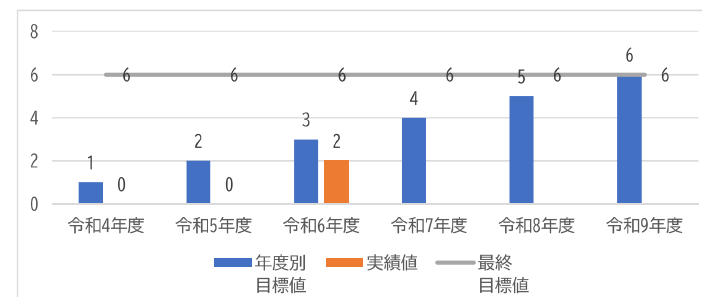
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㊦
中期計画	1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度の香川県でのドクターヘリ要請は432件で昨年度よりも35件増加しており、そのうち、香川大学へのドクターヘリ要請は207件で昨年度よりも10件増加している。なお、当院は基地病院としてドクターヘリ要請に応需するだけでなく、他基地病院からの搬送依頼に対しても積極的に応需するなど、香川県の救急医療に大きく貢献している。また、今年度新たに、フライトドクター2名、フライトナース2名が承認されて業務を開始しており、フライトドクター0JT4名及びフライトナース0JT3名の研修を行なっている。 ②がんゲノムプロファイリング検査に関するエキスパートパネルについて、年間件数は114件であった。紹介患者数を増やすための啓発活動として、県内の医師会等を訪問して、講演を行っている。また、病院運営委員会でエキスパートパネル症例数増加に向け、「がんゲノム他科依頼」の案内等、がんゲノム医療に関する説明を行った。令和7年4月以降で造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト」の運用を開始する予定であり、症例数増加が見込まれる。 ③令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのちも、散発的な感染妊婦の入院、分娩の対応時に対しiCTGを活用した。現状では感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少したため、全体の必要数は減少傾向にある。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、こういった妊婦に対しiCTGを活用した。また、JICAの活動である遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトに参加し、ブータン王国でのiCTG普及に関する研修会に参加し遠隔医療の推進を行っている。同時にミクロネシア諸島での利用促進についても推進している以上のとおり、年度計画達成に向けた取り組みを適切に行っているが、20-2bの指標について、ロードマップを達成していないことから、自己評価(Ⅱ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

a-1. フライトドクター育成数 (第4期中にフライトドクター合計5名)



a-2. フライトナース育成数 (第4期中にフライトナース合計6名)

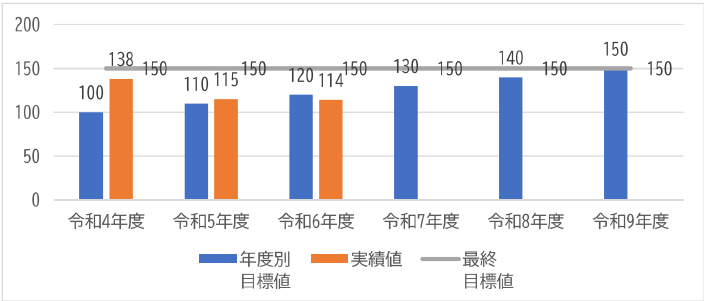


令和6年度 自己点検・評価結果について

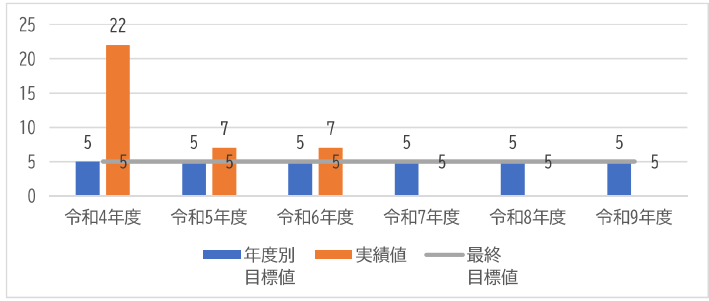
中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㉔
中期計画	1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①令和6年度の香川県でのドクターヘリ要請は432件で昨年度よりも35件増加しており、そのうち、香川大学へのドクターヘリ要請は207件で昨年度よりも10件増加している。なお、当院は基地病院としてドクターヘリ要請に応需するだけでなく、他基地病院からの搬送依頼に対しても積極的に応需するなど、香川県の救急医療に大きく貢献している。また、今年度新たに、フライトドクター2名、フライトナース2名が承認されて業務を開始しており、フライトドクター0JT4名及びフライトナース0JT3名の研修を行なっている。 ②がんゲノムプロファイリング検査に関するエキスパートパネルについて、年間件数は114件であった。紹介患者数を増やすための啓発活動として、県内の医師会等を訪問して、講演を行っている。また、病院運営委員会でエキスパートパネル症例数増加に向け、「がんゲノム他科依頼」の案内等、がんゲノム医療に関する説明を行った。令和7年4月以降で造血器腫瘍遺伝子パネル検査「ヘムサイト」の運用を開始する予定であり、症例数増加が見込まれる。 ③令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのちも、散発的な感染妊婦の入院、分娩の対応時に対しiCTGを活用した。現状では感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少したため、全体の必要数は減少傾向にある。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、こういった妊婦に対しiCTGを活用した。また、JICAの活動である遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトに参加し、ブータン王国でのiCTG普及に関する研修会に参加し遠隔医療の推進を行っている。同時にミクロネシア諸島での利用促進についても推進している以上のとおり、年度計画達成に向けた取り組みを適切に行っているが、20-2bの指標について、ロードマップを達成していないことから、自己評価(Ⅱ)とした。

(参考) 評価指標達成状況

b. がんゲノムプロファイリング検査(※1)に関するエキスパートパネル(※2)件数 (年間150件以上 第4期末)
(※1) がんに関連する遺伝子の変化を複数同時に測定する検査
(※2) 検査の結果、検出された遺伝子変異に対する生物学的意義付けや対応する薬剤の有無、さらには推奨すべき薬剤や臨床試験の順位付け等を検討するための専門家会議



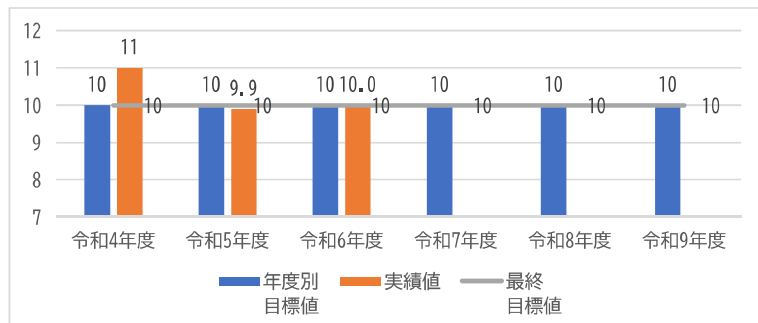
c. 分娩監視装置iCTGによる妊婦健診件数 (第4期の年度平均を5件以上)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ②
中期計画	1-3 医療安全に関する教育体制をさらに充実させ医療人としてリスク管理意識を高め、患者安全の医療を提供する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	①毎月の医療安全管理部員会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議において、インシデントレポート総数に対する医師からの報告件数割合の検証を行い、報告数が増加するように周知を行っている。報告件数全体はR6年度は3220件（前年度3005件）で215件増加していた。医師の報告件数は323件（前年度297件）となっており、R6年度の割合は10.0%となっていた。全体の報告件数が増加しているが、医師の報告件数も増加していた。また、研修医からの報告件数もR5年度は5件であったが、今年度は10件と増加していた。全職員のインシデント報告に対する意識が高まってきていると考えられる。 ②医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関わる授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。看護学科も医療安全に関わる授業について精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。なお、シラバスは医学部ホームページに公開するとともに、医療安全管理部と情報共有している。 上記のとおり、すべての評価指標について目標を達成しており、自己評価（Ⅲ）とした。

(参考) 評価指標達成状況

a. インシデントレポート件数における医師からの報告割合
(第4期の年度平均を10%以上)

b. 令和4年度から医療安全に関する卒前教育の内容について、病院の医療安全管理部、医学教育学講座等が情報共有を行い、系統立てた医療安全に関する講義を実施する。令和5年度以降は前年度の問題点等を整理し、改善を行う。

(令和6年度 実施内容)

医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関わる授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。看護学科も医療安全に関わる授業について精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。なお、シラバスは医学部ホームページに公開するとともに、医療安全管理部と情報共有している。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (1) 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。㊦
中期計画	1-1 産業界、地方自治体、外部の教育研究機関等における外部有識者から成る諮問会議を組織し、学外の視点を積極的に法人経営に取り込む。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和6年7月25日に第3回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、聴取した意見は評価報告書にまとめ大学HPで公開しており、十分に計画を達成した。次年度は第3回諮問会議で出た委員からの意見を反映させ、令和7年7月に第4回目の諮問会議の実施する予定としている。引き続き学長のリーダーシップのもと、強靱なガバナンス体制の構築に努める。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に設置する諮問会議において、毎年度、法人経営上の課題に対する意見を聴取し、その反映状況を公表する。

(令和6年度 実施内容)

令和6年7月25日に第3回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、各委員に対し、学長が諮問する事項とその内容の概略について説明を行い、意見交換を行った。意見交換の結果は、評価報告書の形式に取りまとめ、大学HP上で公開を行った。

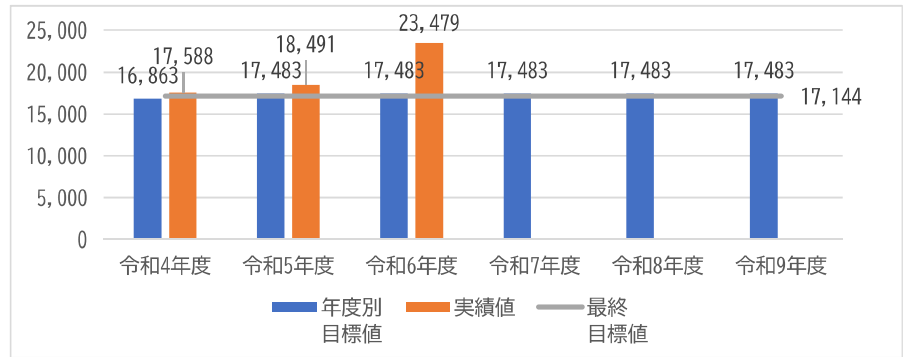
なお、本会議において、教育研究活動等の自己点検・評価における判定基準について、「改善を要する点」として指摘を受けたため、本学における自己点検・評価の評価区分等を見直した。令和6年度以降、新しい評価区分等により自己点検・評価を行う。

令和6年度 自己点検・評価結果について

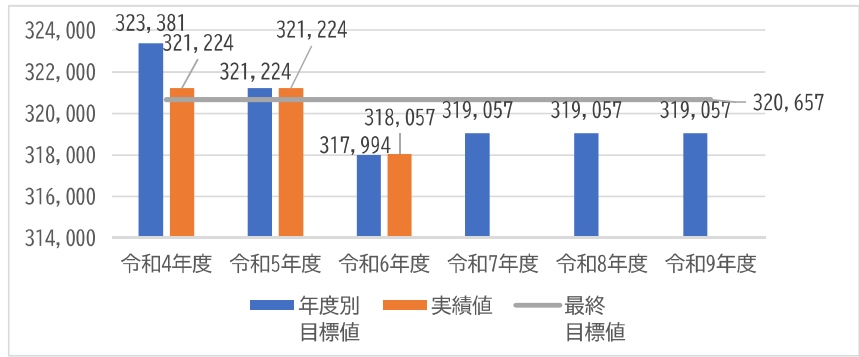
中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉒
中期計画	2-1 大学が保有するスペースの適切な再配分や集約化などを行い、地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、共用スペースを拡充するとともに、利用率の低い施設の用途変更や用途廃止など、保有する建物の総面積の抑制を進め、施設の有効活用を推進する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる共用スペースの拡充は目標を上回り達成しており、保有する建物の総面積の抑制は目標を達成する見込みである。

(参考) 評価指標達成状況

a. 共用スペース面積の増加 (令和9年度の実績を令和3年度末実績(16,173㎡)と比べて6%以上増加)



b. 保有面積の縮減 (令和9年度の実績を令和3年度末実績(323,896㎡)と比べて1%以上縮減)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉔
中期計画	2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充及び老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR6年度の目標を達成しており、老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR6年度の目標を上回り達成している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 全学的共創拠点（イノベーションデザイン研究所、情報メディアセンター）の整備を行う。

○イノベーションデザイン研究所

・令和3年度末に施設整備が完了し、令和4～6年度に設備整備を実施する。

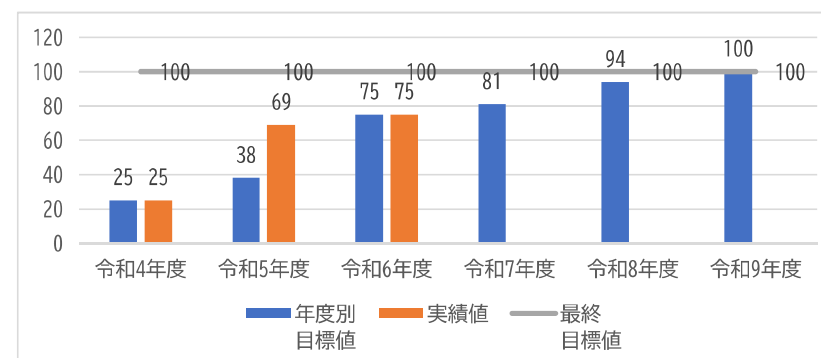
○情報メディアセンター

・令和4～5年度に施設整備、令和6年度に設備整備を実施する。

(令和6年度 実施内容)

R6年度に予定していたイノベーションデザイン研究所及び情報メディアセンターの設備整備をR4年度に前倒し実施したため、R6年度の目標を達成している。

b. ICT環境の拡充を要する講義室の整備率（令和3年度時点で未整備の講義室(14室)を令和9年度末時点で100%整備）

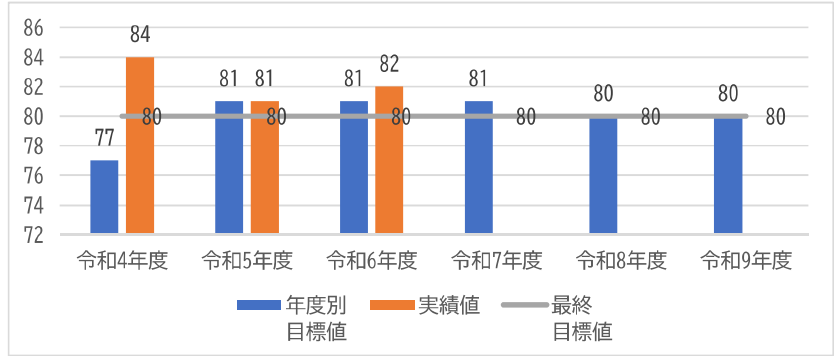


令和6年度 自己点検・評価結果について

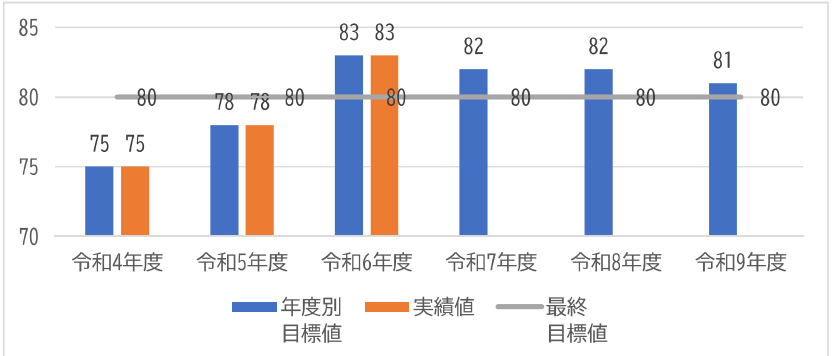
中期目標	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉒
中期計画	2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充及び老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR6年度の目標を達成しており、老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR6年度の目標を上回り達成している。

(参考) 評価指標達成状況

c. 老朽化建物（経過年数50年超）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



d. 主要4団地（幸町・林町・三木町医学部・三木町農学部）の老朽化設備（経過年数30年超の給排水・電気等の配管・配線）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って実施が行えている。地域連携推進課の「学術貢献費」を受入可能にする制度の見直しについて、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。 ・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、令和6年度においても27,720万円の収入があった。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、令和4年度と比較し、講義室等短期貸付料収入が約432万円の収入増となっている。

(参考) 評価指標達成状況

a. 外部資金の獲得状況について、毎年度、外部の有識者から意見を聴取し、評価結果を公表する。

(令和6年度 実施内容)

【研究協力課】

科研費申請に関する説明会、申請書のブラッシュアップ(98件)を行い、39件採択された。そのうち基盤Cは27件採択され採択率は42.9%(令和6年度22.8%)であり、若手研究は9件採択され採択率は45%(令和6年度36.8%)であった。また、学長戦略経費において、科研費基盤B以上の獲得強化のための研究推進事業「基盤Bチャレンジ次年度支援」を2件採択した。さらに、「基盤Bチャレンジ次年度支援」採択者、研究推進事業採択者の希望者、医学部・創造工学部・農学部・理系3学部から推薦のあった者、計15人を対象に、ロバスト・ジャパン㈱の科研費申請書レビュー支援を行い、4名が科研費に採択された。

外部資金の獲得強化に向けた取組の結果、令和7年度の科研費は新規・継続合わせて348件、495,885千円で、前年度から9件の増加、20,930千円の増加となった(新規は16件増加、6,760千円減少。継続は7件減少、27,690千円増加)。

【地域連携推進課】

産学連携・知的財産センターで、「学術貢献費」導入に向け検討を進めている。先行実施している他大学や、中四国等の大学での導入状況調査を行うとともに、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。

【財務企画課】

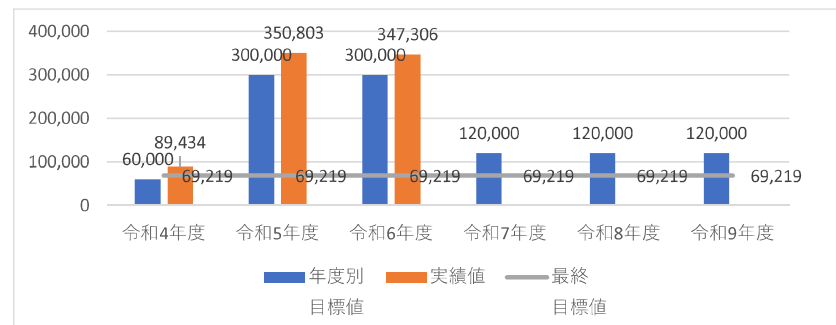
外部資金獲得を推進するため、令和6年度当初予算において、学部等の教育研究活動の成果を予算に反映させるため、活動実績に基づく運営費配分制度の評価指標に沿って予算配分を実施した。令和6年度は、学部等の運営費配分に係る評価配分率を「80～120%」から「75～125%」に変更し、メリハリのある配分を行った。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って実施が行えている。地域連携推進課の「学術貢献費」を受入可能にする制度の見直しについて、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。 ・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、令和6年度においても27,720万円の収入があった。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、令和4年度と比較し、講義室等短期貸付料収入が約432万円の収入増となっている。

(参考) 評価指標達成状況

b. 財産貸付料・手数料収入の増 (令和9年度の実績を第3期平均と比べて20%以上増加)

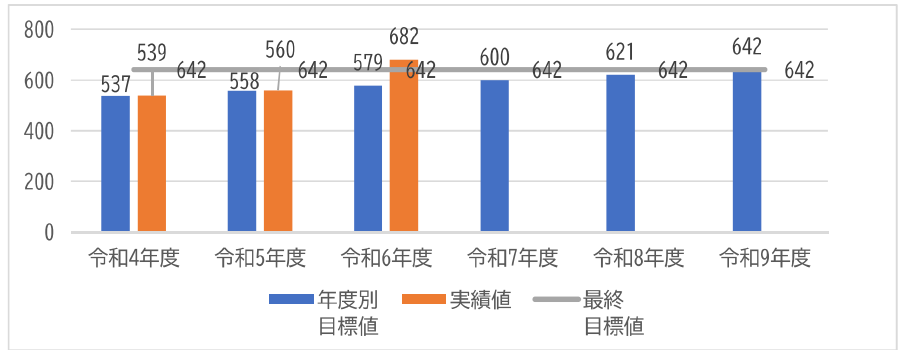


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓
中期計画	1-2 学長のリーダーシップのもと、学長戦略経費を増加させることなどにより、機能強化や組織改革等の取組を戦略的かつ効果的に推進するための資源配分の仕組みを構築する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学長戦略経費のうち、第4期中期目標・中期計画推進事業として特定した取組については、学長を含めた役員等によるヒヤリングを実施し、その進捗状況等を確認した上で、予算を配分した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 学長戦略経費の増 (令和9年度の実績を令和3年度実績と比べて30%以上増加)



令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 (1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉔
中期計画	1-1 中期計画の進捗状況、評価指標の達成状況等について、客観的なデータに基づき自己点検・評価するとともに、外部の意見を取り入れた評価結果を公表する。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和5年度の実績について、自己点検・評価を着実に実施するとともに、外部評価として「国立大学法人香川大学諮問会議」においても、自己点検・評価結果について検証を実施している。また、それぞれ評価結果等について外部への公表を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

a. 中期計画の達成状況の自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果や改善状況等を公表する。

b. 外部評価を実施し、評価結果及び評価結果の反映状況等の公表を行う。

(令和6年度 実施内容)

中期計画に係る評価指標及びロードマップに係る進捗状況点検結果について、大学評価委員会での当該点検結果の検証等を実施し、評価結果の確定を行った。併せて、当該結果をホームページで公表している。

(令和6年度 実施内容)

「国立大学法人香川大学諮問会議」において、自己点検・評価の結果を基に、中期計画の進捗状況の検証を行った。また、諮問会議にて、委員等よりいただいた意見等をとりまとめ、評価報告書として各担当部局へ共有し、適宜改善を実施している。評価報告書については外部評価結果として、ホームページで公表している。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 (1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉔
中期計画	1-2 デジタルONE戦略に基づき、学内の情報を集約し、データベース化することで、ステークホルダーに積極的に情報を発信するとともに、双方向の対話を行う。
令和6年度自己判定	(Ⅲ) 計画を実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a. 令和4年度に情報共有方法の見直しを行い、学内における情報発信に関する統ルールを整理・策定した。これに基づき、プレスリリースやテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を集約するデータベースを構築・運用しており、現在も日々情報の蓄積を継続している。 学内の注目されている出来事や人物を迅速に検索できるよう、プレスリリースや報道情報を集約したデータベースを活用している。これにより、記者等外部からの照会対応や、広報誌等における取材対象の選定に役立てている。また、データベースや情報入力フォームに容易にアクセスできるポータルサイトを作成し、学内周知することにより、全学で活用できる体制を整備した。さらに、本データベースは「D i g i -ONE」とも連携しており、報道情報をカレンダー形式でタイムリーに学内共有するための情報源としても活用している。 b. 令和4年度に構築・導入した広報誌、ホームページ、SNS等の各種広報媒体に対するモニター制度に基づき、今年度も新たに、年代・居住地・職業等の属性が多様なモニターを募集し、2回のアンケート調査を実施し、各広報媒体の評価、改善点等に関する意見を収集した。 また、令和5年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部局から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に情報発信に関する学内統ルールを整理・策定し、令和5年度に学内の情報を集約するデータベースの整備を行う。令和6年度からデータベースを活用した情報発信を行う。

(令和6年度 実施内容)

令和4年度に情報共有方法の見直しを行い、学内における情報発信に関する統ルールを整理・策定した。これに基づき、プレスリリースやテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を集約するデータベースを構築・運用しており、現在も日々情報の蓄積を継続している。

学内の注目されている出来事や人物を迅速に検索できるよう、プレスリリースや報道情報を集約したデータベースを活用している。これにより、記者等外部からの照会対応や、広報誌等における取材対象の選定に役立てている。また、データベースや情報入力フォームに容易にアクセスできるポータルサイトを作成し、学内周知することにより、全学で活用できる体制を整備した。
さらに、本データベースは「D i g i -ONE」とも連携しており、報道情報をカレンダー形式でタイムリーに学内共有するための情報源としても活用している。

b. 令和4年度にモニター制度を構築・導入し、令和5年度から毎年度モニターからの意見と対応を公表する。

(令和6年度 実施内容)

令和4年度に構築・導入した広報誌、ホームページ、SNS等の各種広報媒体に対するモニター制度に基づき、今年度も新たに、年代・居住地・職業等の属性が多様なモニターを募集し、2回のアンケート調査を実施し、各広報媒体の評価、改善点等に関する意見を収集した。

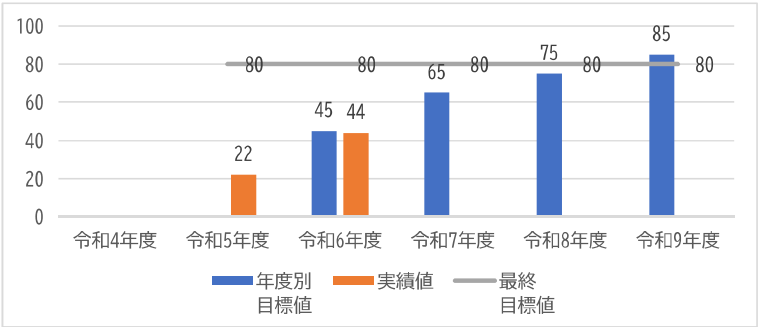
また、令和5年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部局から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。

令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。25
中期計画	1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a 重複での推薦者が多かったこともあり、R6年度は年度目標に若干及ばなかったが、R7年度は100人超の新規のアンバサダーを任命しており、任命率70%超を達成する見込みである。 b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上) c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上) 概ね順調に進捗しており、概ねKPIを達成している。

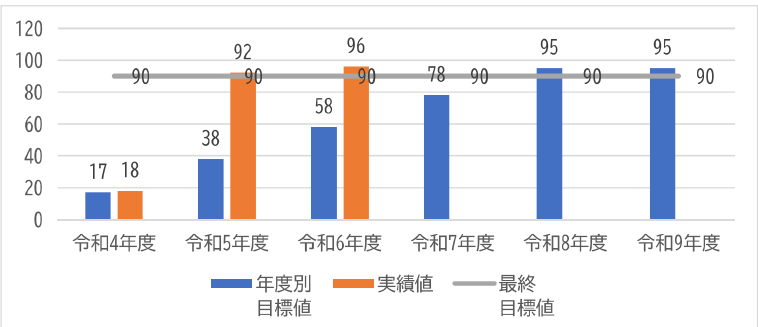
(参考) 評価指標達成状況

a. 常勤事務職員(一般職員Ⅰ)のうち、DX推進担当(デジタルONEアンバサダー)の経験を有する者の割合が80%以上



※令和6年度より評価指標変更

b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上)

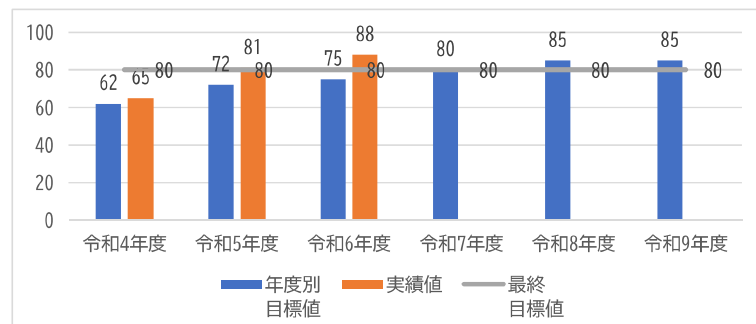


令和6年度 自己点検・評価結果について

中期目標	V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②⑤
中期計画	1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。
令和6年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	a 重複での推薦者が多かったこともあり、R6年度は年度目標に若干及ばなかったが、R7年度は100人超の新規のアンバサダーを任命しており、任命率70%超を達成する見込みである。 b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上) c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上) 概ね順調に進捗しており、概ねKPIを達成している。

(参考) 評価指標達成状況

c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上)



評価事項：社会との共創に関すること[中期目標・中期計画①]

- ・学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて
- ・地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて
- ・SDGs に関する取り組みについて

1. 令和6年度取組内容等：別紙のとおり

2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

【反映状況】 ○今後に期待する点について ・学生参加型実践教育プログラムについては、これまで採択されていない授業科目や「若者の地域定着」に関するテーマの授業科目について加点する仕組みとし、より「地域と連携した」多くの学生が取り組める「実践教育プログラム」となるよう見直した。 ・「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」においては、「芸術未来研究場せとうち」を拠点として、瀬戸内海の「藻場造成」「種苗生産」「サーキュラーエコノミー」に着目し、10年後の瀬戸内海における、水産資源の安定供給による「藻場から始まる資源あふれる豊かな瀬戸内海の創生」を目指して取り組んでいる。 また、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」では、「芸術未来研究場せとうち」を拠点とし、東京藝術大学と連携して、瀬戸内における「アート×科学」によるイノベーション創出と地域課題解決に取り組んでいる。	優れている点	・各種各機関と手を取りながら、意欲的な共創プロジェクトに取り組んでいる。
	改善を要する点	・特になし
	今後に期待する点	・学生参加型の実践教育プログラムにおいて、参加している学生数が徐々に増えてきているところを非常に評価しており、さらに、何らかの形で学生が少しでも一つでも関わるような仕組みを検討いただきたい。 ・新しく庵治にできた施設「芸術未来研究場せとうち」を拠点として、瀬戸内を一つの大きなテーマとし、瀬戸内の海を或いは魚を活かしていくということで、意欲的に取り組んでいただきたい。

社会との共創に関すること「地域と連携した学生参加型実践教育プログラム」

諮問会議
審議資料 2-1
令和7年7月7日

中期計画

地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。 <<第4期最終年度目標値66件（1196人）>>【R6年度_69件（1499人）】（ ）内は参加学生数

地域社会への認識を深め、県内における地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材育成につなげる

・「学生参加型実践教育プログラム」への経費支援件数 令和6年度14件

※学生参加型実践教育プログラムの定義：学生が県内フィールドワークを行う授業科目及び地域を題材とした全学的な自主活動プログラム

授業科目の中で、地元自治体や地域企業・団体、県内大学等と連携したプロジェクトや取組に対し、経費を支援

【R6年度 学生参加型実践教育プログラムへの支援例】

授業名	事業概要
香川で学ぶ地域・地場産業体験	香川県内の自治体や地場産業に携わる方々と共に、仕事を体験し、地域に根付く職業を理解したうえで、そこにしかない課題を理解するとともに解決に導く科目（活動場所：宇多津町、小豆島町、土庄町）
コミュニティデザイン実習	香川県をはじめとした地域社会とコミュニティについて理解を深め、地域に愛着を持つとともに、地域に根付く文化や特徴を理解し、そこにしかない課題を理解するとともに解決に導く科目（活動場所：高松市）
事業継続マネジメント	香川県内企業を対象とした事業継続計画（BCP）を策定することで、香川県内の地域産業への理解やリスクマネジメントの在り方の理解を深める（活動場所：高松市）

・「地域活動MAP」を作成し、Webで公開。

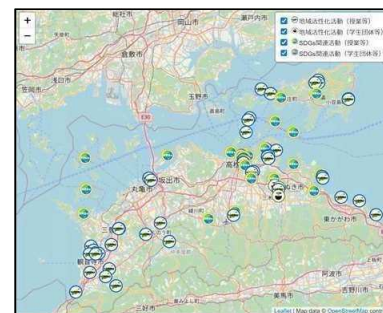
教員や学生が地域をフィールドとした活動を視覚的に表したMAPを作成し、HP上で公開

【MAPで公開した活動の事例】

重要伝統的建造物群保存地区内の町家改修に関する建築設計演習（丸亀市）	香川県の精神保健福祉フィールドで学ぶ当事者の地域生活・就労支援事業所訪問プログラム（高松市）	海への環境負荷を考慮した瀬戸内海発祥伝統釣具の開発（高松市）	インクルーシブ教育の実現に向けて特別支援学校に何ができるかを考えた取組（坂出市）
自然科学論に関するフィールドワーク（坂出市）	外国人留学生の盆栽ワークショップ（高松市）	事業継続マネジメントに関するフィールドワーク（高松市）	瀬戸内海の地理的・文化的景観と伝統的産業に関するフィールドワーク（小豆島町）
栗林公園掬月亭での日本の伝統文化の抹茶体験（高松市）	瀬戸内海の高ごみ問題に関するフィールドワーク（坂出市）	アントレプレナーシップ育成に関するフィールドワーク（丸亀市）	屋島での遍路体験（高松市）



<R6_コミュニティデザイン実習_コミュニティ祭の様子>



<地域活動MAP（オーバービュー）>



<地域活動MAP（詳細データ）>

社会との共創に関すること [地域課題解決指向型共創プロジェクト]

諮問会議
審議資料 2-2
令和7年7月7日

中期計画

地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
「第4期最終年度の目標値_実績件数3件、参加教職員数15名」【R6年度実績_実績件数15件、参加教職員数69名】

産官学の連携の下で、大学が核となる「地域課題解決指向型共創プロジェクト」を展開

「地域からのニーズに基づく、地域課題解決指向型共創プロジェクトを実施」

①県内企業の多様な人材確保支援（大学・地域共創プラットフォーム香川）

大学・地域共創プラットフォーム香川内に県内企業の多様な人材確保支援プロジェクトチームを設置し、県内企業の中途採用や高度外国人材の活用、早期離職者等に関する実態調査と分析を行い、各種セミナーや勉強会を開催。



①＜特別セミナー「富山県における中核人材確保モデル」＞



①＜参画機関合同のオンライン勉強会＞

②「讃岐米」のブランドマーケティング戦略の研究（香川短期大学、(株)四国ライス、香川県）

讃岐米の魅力を消費者に広く発信して、消費増を推進する施策に繋げるべく、おむすび販売店舗「香川大学おむすび研究室」を出店、さぬき米拡販イベント「RICE MAKERS SUMMIT」を東京大手町 MIRAI LAB PALETTE(イベントスペース)で開催するなど販促活動を実施。



②＜さぬきマルシェ inサンポートのおむすび販売店＞



②＜さぬき米拡販イベント「RICE MAKERS SUMMIT」＞

③農業軽労化ロボットの有効活用のための人材育成（大豊産業(株)、香川県）

各種イベントを通じて、農業従事者とロボット開発者相互の理解を深め、真に農業の軽労化に貢献する技術開発に繋げることで、若年労働者の農業への興味を創出。



③＜農業散布の現場視察＞



④＜(株)タダノ志度工場の見学＞

④かがわの会社探検（香川県、(株)石垣、(株)レグザム、オリエンタルモーター(株)、(株)タダノ）

県内企業4社の協力を得て、工場見学ならびに工作教室を実施。(株)石垣、(株)レグザム、オリエンタルモーター(株)、(株)タダノにおいて、県内小学生の親子計113組が参加。

社会との共創に関すること [地域課題解決指向型共創プロジェクト]

⑤香川大学型DX 推進モデルの地域展開

(㈱リコージャパン、日本マイクロソフト㈱、高松商工会議所、香川県)

KadaiDXシンポジウムの開催、DX推進カタログサイトの構築、地域の中小企業向けのノーコード・ローコードツールを用いた業務システム内製開発ハンズオン講座「KadaiDX塾2024」を開催し、DXの地域展開に向けた取組を実施。



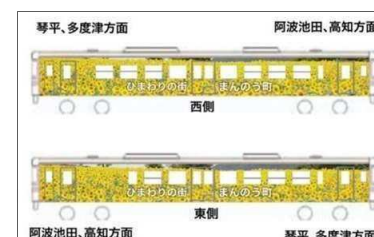
⑤ <KadaiDXシンポジウム パネルディスカッション>



⑤ <KadaiDX塾2024 初級編演習>

⑥まんのう町魅力発信プロジェクト（一般社団法人サンフラワーまんのう、まんのう町）

まんのう町魅力発見ワークショップ（アイデアソン）を開催し、「自慢したくなる！ オススメしたくなるまんのう町って？」をテーマに、主に中学生・大学生・まんのう町地域振興課職員が意見交換。発信したいまんのう町の魅力動画を撮影し、PR動画を公開。



⑥ <アイデアソンにおいて中学生が作成した提案>



⑥ <PR動画撮影>

⑦未来教室（小児生活習慣病対策のための出前教室の実施と香川県下における地域に根ざした指導人材の育成） （松谷化学工業㈱、香川県）

「未来教室」と題し、子供たちに、早期の段階から自分たちの健康について考える課題解決型学習体験イベントを企画・運営。未来教室plus in香川大学では、40名の親子を対象に、3つの体験ブース（栄養・歯科・病院）を設け、夏休みの自由研究として身体の仕組みや生活習慣の重要性を講義・実演。



⑦ <未来教室の様子>



⑦ <未来教室の様子>

⑧悪性サイト検出システムの研究・開発 【共同研究】

(一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター、千葉県警察、神奈川県警察、トレンドマイクロ㈱)

違法有害情報(悪性サイトや偽情報など)の検出・対策、知的侵入検出・防御システムの構築、悪性TLS通信の識別、マルウェア解析・対策など、産学官が連携した非営利目的の研究推進により、サイバー空間の安全の確保に寄与するべく共同研究を実施

社会との共創に関すること [SDGsの推進（地域課題関連プロジェクト）]

中期計画

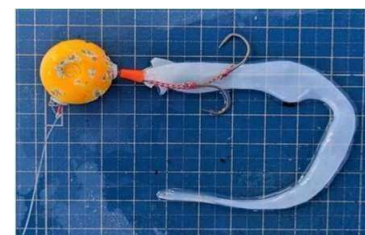
SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定するとともに、活動経費の支援を行い、地域課題の解決に資する取組を推進する。

≪第4期最終年度の目標値_実績件数3件≫【R6年度実績_実績件数17件】

地域課題の解決に資するSDGsの取組を、学長戦略経費「SDGs推進経費」により学内公募し支援

≪令和6年度採択課題≫

No	代表者	課題名
①	農学部 一見和彦	庵治半島を舞台とした海と学びをつなぐ環境プロジェクト 
②	附属特別支援学校 小林敬芳	インクルーシブ教育の実現に向けて特別支援学校に何ができるかを考えた取組 
③	創造工学部 勝又暢久	海への環境負荷を考慮した瀬戸内海発祥伝統釣具の開発 
④	経済学部 緒方宏海	香川県離島高齢者の生活ニーズ、社会的孤立の防止と島の人口増加対策 
⑤	経済学部 古川尚幸	若者の衣料品リユースの場の創出に向けた実証的取り組み 
⑥	学生支援センター 常田美穂	地域におけるインクルーシブ教育の場の創出：共生社会の形成に向けて 
⑦	地域人材共創センター 神田 亮	瀬戸内地域活性化プロジェクトにおける海ごみ調査プロジェクト 



③ <海への環境負荷を考慮した瀬戸内海発祥伝統釣具の開発>



⑤ <若者の衣料品リユースの場の創出に向けた実証的取り組み>



⑥ <地域におけるインクルーシブ教育の場の創出：共生社会の形成に向けて>



⑦ <瀬戸内地域活性化プロジェクトにおける海ごみ調査プロジェクト>

評価事項：リカレント教育に関すること[中期目標・中期計画⑪]

1. 令和6年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

【反映状況】 ○今後に期待する点について 受講生に対して、講座の受講前と受講後にアンケートを行い、講座の内容の定着度を測っており、ダッシュボードで可視化している。また、科目によっては受講生のフォローアップセミナーを実施するとともに、企業ヒアリングなども行い、リカレント教育の成果の確認を行っている。	優れている点	・ 特になし
	改善を要する点	・ 特になし
	今後に期待する点	・ リカレント専門講座について、こういったものが定着していつているのか、受講された方が実際に実社会でどのように活かされているのか、ということを取り纏め、リカレント教育の成果の可視化を検討いただきたい。

リカレント教育に関すること [リカレント専門講座の拡充]

中期計画

社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に応えるため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキング教育を展開する。◀第4期最終年度の目標値_実績件数6件、受講者数110名> 【R6年度実績_実績件数12件、受講者数156名】

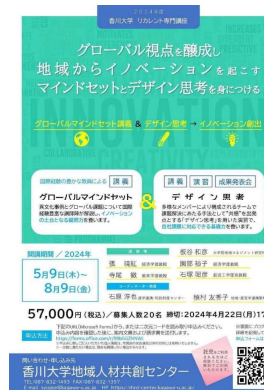
自治体や地域企業のニーズ情報を基に、学部コーディネーターと連携して講師や内容等を企画・調整し、リカレント専門講座を実施

地域人材共創センターにおいて、自治体や地域企業から寄せられたリカレント・リスキングのニーズ情報を基に、本学の学部コーディネーターと連携して講師や内容等を調整する体制を整備し、公開講座を計画・実施。

【R6年度リカレント専門講座一覧】

講座名	開催期間
グローバル視点を醸成し、地域からイノベーションを起こすマインドセットとデザイン思考を身につける	R6.5.9 ~ R6.8.9
ジョ・ガストロノミー・リズム・エキスパート養成講座	R6.7.5 ~ R6.9.19
アントレプレナーシップ入門講座（事業計画作成編）	R6.12.6 ~ R7.1.25
住民主体の観光地域づくり～共感ツーリズムで秘境から桃源郷へ～	R6.12.5 ~ R7.1.16

【ホームページ等で情報提供】



リカレント教育に関すること [リカレント専門講座の拡充]

◆グローバル視点を醸成し、地域からイノベーションを起こすマインドセットとデザイン思考を身につける

【目的】イノベーションの土台となる疑問力を養い、デザイン思考を用いた演習で、自社課題に対応できる基礎力を養う

【期間】令和6年5月9日 ～ 令和6年8月9日 の9日間

➢製造業、鉄道業、電気業、コンサルティング事業、サービス業、金融業など 21名が受講



◆ジオ・ガストロノミー・ツーリズム・エキスパート養成講座

【目的】その土地でしか味わえない食、体験、持続可能な観光等に焦点を当てたジオ・ガストロノミー・ツーリズムのガイドやプランナーを養成する

【期間】令和6年7月5日 ～ 令和6年9月19日 の3日間

➢観光業、コンサルティング事業、自治体、製造業など 8名が受講

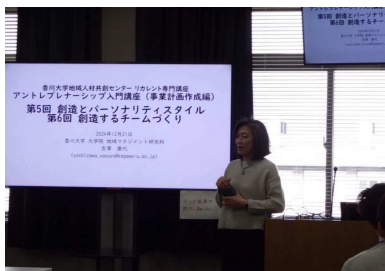


◆アントレプレナーシップ入門講座（事業計画作成編）

【目的】具体的なケースの検討においてアントレプレナーシップの発揮を体験することで、地域との関係性構築、地域活性化に貢献しうる手法を身につけた人材を育成する

【期間】令和6年12月6日 ～ 令和7年1月25日 の5日間

➢情報通信業、サービス業、県職員など 7名が受講



◆住民主体の観光地域づくり ～共感ツーリズムで秘境から桃源郷へ～

【目的】「地域に暮らす人たちのための、持続可能な観光」について考え、地域の隠れた資源に価値を見出し、人々と地域がHAPPYになる観光のあり方を描く。

【期間】令和6年12月5日 ～ 令和7年1月16日 の4日間

➢製造業、鉄道業、サービス業、県職員、児童福祉業など 10名が受講



評価事項：ダイバーシティ推進体制に関すること[中期目標・中期計画⑬]

1. 令和6年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

【反映状況】 ○今後に期待する点について ダイバーシティ推進に係る活動については、ニュースレターやリーフレットを作成するとともに、ダイバーシティ推進室ホームページ内にて公表している。また、案件によってはプレスリリースも行っている。 令和6年度の主な活動の公表として、D&I フェスタ、D&I マスター制度、多目的トイレの表示名変更（ALL GENDER トイレ）、JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」などがある。	優れている点	・ 特になし
	改善を要する点	・ 特になし
	今後に期待する点	・ ダイバーシティ推進に係る活動について、どのような進展があるのか、その都度公表していただきたい。



KAGAWA Diversity & Inclusion

Contents

- ◎香川大学 D&I フェスタ 2024 開催
- ◎D&I を学ぶ
- ◎女性研究者支援

- ◎女子中高生の理系進路選択支援プログラム
- ◎ワーク・ライフ・バランス支援
- ◎INFORMATION

ごあいさつ

理事・副学長 野口 里美

(企画・評価・ダイバーシティ担当)

平素より本学のダイバーシティ推進にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年度より企画・評価・ダイバーシティ担当理事を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

本学は、2021年10月に「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進宣言」を行い、多様な背景や個性を尊重し合える学びの場づくりを目指してまいりました。基本方針やガイドラインを策定し、2025年度からは学生の通称名の使用に加え、自認する性別の使用を認める制度を導入します。これらの取り組みは、多様性を受け入れる風土を醸成し、すべての人が自己を最大限に発揮できる環境を提供するための第一歩です。

私は、D&I推進の取り組みを通じて、次のような大学を実現したいと考えています。それは、学生が周囲

の制約や不安に縛られることなく、自分のやりたいことに専念できる環境、教員が自由に創造的な教育・研究に取り組める風土、そして職員がやりがいを持って楽しく業務に向き合える職場です。この目標を達成するためには、制度改革だけでなく、私たち一人ひとりが多様性を受け入れ、対話を重ねていくことが重要です。

私たちの取り組みはまだ道半ばです。皆さまと力を合わせ、多様性が力に変わる組織づくりを進めてまいります。引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



本学の多目的トイレを「ALL GENDERTイレ」としても利用しやすいように、右のサインを多目的トイレのサインとしました。「ALL GENDERTイレ」の場所については、ユニバーサルデザインマップをご覧ください。



どなたでも自由にお使いください

ALL GENDER



日本語版



English

ユニバーサルデザインマップ
Accessibility Map

REPORT

香川大学 D&I フェスタ 2024

本学が「D&I推進宣言」を行った10月を中心に、センター・関連部局と連携し、D&Iをさらに推進するため、全構成員（学生・教職員）を対象とした啓発イベント「香川大学D&Iフェスタ2024」を実施しました。



D&I セミナー Part1

どうしてやめられないんだろう？ ～依存症から考えるこころの健康～



野仲氏

10月9日（水）、多目的ホール（幸町北キャンパスオリーブスクエア）にて、見えない生きづらさの一つである「依存症」をテーマに、保健管理センターの「ヘルストピックス講演会」も兼ねて対面形式（オンライン併用）で実施しました。

まず、上田夏生学長から開会の挨拶が述べられ、野仲和真氏（本学保健管理センター臨床心理士）から、依存症の症状やメカニズム、要因などについて、大変わかりやすく説明していただきました。

アンケートより

- ◎わかりやすい組み立てで、依存症のことやメカニズムがとてもよくわかった
- ◎今回の講演について心に留め、自身の偏見をなくしたいと思った

D&I セミナー Part2

LGBT から多様性や誰もが生きやすい社会を考える



あしたプロジェクト谷氏、福井氏（左から）

10月30日（水）、331講義室（幸町北キャンパス3号館3階）にて、「LGBTから多様性や誰もが生きやすい社会を考える」というテーマで、ゲストスピーカーとして、あしたプロジェクト代表の谷昂頼氏、副代表の福井瑞穂氏をお招きし、教育学部「人権教育」の授業を本学構成員に公開して開催しました。

お二人からは、カミングアウト、パー

トナーや家族、戸籍の性別変更など、ご自身の実体験を交えてお話いただき、その後、グループに分かれて感想を共有しました。質疑応答の時間では、普段聞きにくい質問にも丁寧に回答いただき、「SOGIに関わらず自分らしく生きることができる社会」にしていく大切さを実感したセミナーとなりました。

アンケートより

- ◎選択ができるようになることが大切だと思った
- ◎最近、SNSなどでも沢山話題になっているからこそ、正しい知識を身につけたい

D&I フェスタ 関連イベント
バリアフリー支援室

車椅子講習会

フェスタ期間中、4回の車椅子講習会を開催し、教職員7名、学生5名が参加しました。実際に車椅子を操作することにより、小さな段差や傾斜を発見することができ、キャンパス内のバリアフリーについて改めて考える機会になりました。



D&I ランチトーク

多様性を考える前に～自分を知れば、他人も見えてくる！～

10月23日(水)の昼休み、D&Iスペース(幸町北キャンパス5号館1階)で、野口里美氏(企画・評価・ダイバーシティ担当理事)が話題提供者となり、学生を対象に、サブパーソナリティランプ(SPTランプ)を使用したD&Iランチトークを実施しました。

SPTランプとは、個人の異なる側面やパーソナリティを表現するためのランプの一種です。各カードには異なる性格や特徴が描かれており、各自の性格特徴、強み、弱み、また、自己の様々な特徴、他者の特徴、他者との関係性、他者への効果的な対応方法等を簡単に知ることができます。

このイベントを通じて、学生たちは、自分を理解することで他者と関わる時に生かすことができることや、他者を知るためにはまずは自分を理解することが必要といった気づきがあり、今後もこのような取り組みを続け、多様性の理解を深めていきたいと思っています。



ランチトークの様子

D&I キャンパスプロジェクト Aster ワークショップ

性の多様性について知ろう～映画「カランコエの花」を通して気づくこと～

11月6日(水)、421講義室(幸町北キャンパス4号館2階)にて、1年生から4年生のD&IキャンパスプロジェクトAsterメンバーの企画・運営によるワークショップを開催しました。

前半では、映画「カランコエの花」を視聴し、後半では、映画の「感想」、「印象に残った場面」、「主人公の立場で」、「主人公以外の立場で」考えたことを各自付箋に書いた後、グループに分かれ、付箋を基に、意見交換をしました。最後は、付箋を模造紙に貼り、他グループで出された意見を共有して終了となりました。

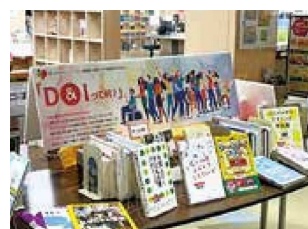


ワークショップの様子

D&I 書籍展示「D&I って何？」

今年度、初めての試みとして、香川大学図書館の協力を得て、同中央館2階で10月の1か月間、D&I関連書籍の展示を実施しました。

バリアフリー支援室、インターナショナルオフィス、保健管理センター及び当室に加え、図書館スタッフからも、D&Iに興味をもち、手に取りやすい本を推薦していただき、図書館学生協働スタッフによるPOPと共に展示しました。



入口近くに展示された書籍



図書館学生協働スタッフによるPOP

D&I フェスタ 関連イベント
インターナショナルオフィス

グローバル・カフェイベント

10月21日(月)にアンドレアス・イエンセン氏(オーストリア・インスブルック大学助教)による講演「ドイツにおける亡命手続きと難民の現実について」、10月31日(木)に「フィンランドの学校・教育について現地の先生から学ぼう! Schools and Education in Finland」を開催しました。



アンドレアス・イエンセン氏

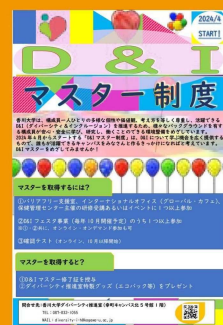


フィンランドイベント

REPORT

D&Iを学ぶ

2024年度は、学生向けの全学共通科目として「D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)入門」、「多様なキャリアを考えるー男女共同参画の視点から」の2講座をダイバーシティ推進室が担当しました。また、教職員向けのD&I研修では、「アンコンシャス・バイアス」をテーマにオンラインとオンデマンドで実施しました。さらに、D&Iについて学ぶ機会を全構成員へ広く提供するため、「D&Iマスター制度」をスタートしました。



D&I 入門 (第1クォーター 火曜1時限目)

この授業では、学内外の教員によるオムニバス形式によって、ジェンダー、障害、多文化、性の多様性、大学、企業などの幅広い視点からD&Iについて学びます。

回	講義日	授業タイトルと内容	担当講師	所属
1	4/16(火)	オリエンテーション	高木由美子 黒澤あずさ	ダイバーシティ推進室室長・教育学部教授 ダイバーシティ推進室特命准教授・コーディネーター
2	4/23(火)	障害を考える	大沼泰枝先生	学生支援センター バリアフリー支援室准教授
3	4/30(火)	ユニバーサルデザインを考える	中島美登子先生	創造工学部准教授
4	5/7(火)	多文化共生を考える	植村友香子先生	インターナショナルオフィス特命准教授
5	5/14(火)	ジェンダーを考える	園部裕子先生	経済学部教授
6	5/21(火)	性の多様性を考える	葛西真記子先生	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
7	5/28(火)	見えない生きづらさを考える	長谷綾子先生	医学部臨床心理学科准教授
8	6/4(火)	ダイバーシティマネジメントを考える	吉澤康代先生	大学院地域マネジメント研究科教授

多様なライフ・キャリアを考えるー男女共同参画の視点から (第1クォーター 木曜5時限目)

「男女共同参画」を基軸とした価値観をキャリア・ライフデザインにどのように位置づけていくかを考えるための講義を提供します。多様な分野で活躍している主に実務家によるオムニバス形式で構成されています。

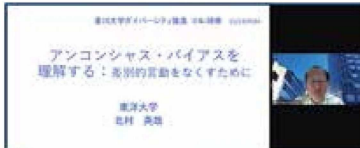
回	講義日	授業タイトルと内容	担当講師	所属
1	4/11(木)	「男女共同参画推進社会」について総論 ー「どんな個人も尊重して生きられる社会を目指して」	永田真一先生	外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部 政務社会部専門機関班参事官
2	4/18(木)	「誰もが生き生きと働くために ー男女共同参画の視点から働き方を考える」	澤渡恭子先生	香川労働局雇用環境・均等室長
3	4/25(木)	「裁判所におけるキャリア」	多知川正人先生 嶋田敬子先生	高松地方裁判所総務課長 高松家庭裁判所主任調査官
4	5/2(木)	「ジェンダーの視点で考える『法』と『社会』」	佐藤倫子先生	香川県弁護士会
5	5/16(木)	「子育て家庭の現状と課題、必要な支援とは」	中橋恵美子先生	NPO法人わははネット理事長
6	5/23(木)	「SRHR(セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツ)を知りましょう」	塩田敦子	ダイバーシティ推進室副室長・医学部医学科教授
7	5/30(木)	「技術者を取り巻くさまざまな環境での 自分らしい働き方」	岩井綾先生	復建調査設計株式会社四国支社河川設計課係長
8	6/6(木)	「企業におけるダイバーシティについて」	杠明日美先生	アオイ電子株式会社高松本社商品開発部課長代理

REPORT

D&I研修「アンコンシャス・バイアスを理解するー差別的言動をなくすためにー」(12月23日(月)開催)

2024年度は、誰もが安心して学べるキャンパスをめざして、「アンコンシャス・バイアスを理解するー差別的言動をなくすためにー」をテーマとして教職員を対象に研修を実施しました。

まず、高木由美子ダイバーシティ推進室長から開会の挨拶が述べられ、講師の北村英哉氏(東洋大学社会学部社会心理学科教授)による講義が行われました。「アンコンシャス・バイアスとは何か」、「差別的言動を改善するための対策」などについて、具体的な事例を交えながらお話をいただきました。最後に、ダイバーシティ推進室より、「D&I推進に向けてのガイドライン」およびD&Iに関する相談窓口、今年度から開始した「D&Iマスター制度」についての情報提供がありました。



アンケートより

- ◎リアルタイムで起こっている事案をわかりやすく説明いただき、腑に落ちた部分があった
- ◎日常で気をつけるべき点などが明らかになった

D&Iマスター制度

2024年4月からスタートした「D&Iマスター制度」は、D&Iについて学ぶ機会を広く提供するもので、誰もが活躍できるキャンパスをみなさんと作るきっかけになればと考えています。D&Iマスターを取得された方には、D&Iマスター修了証を授与し、ダイバーシティ推進室特製グッズ(エコバック等)をプレゼントします。みなさん、D&Iマスターをめざしてみませんか!



D&Iマスター修了証

ダイバーシティ
推進室特製グッズ

女性研究者支援

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択された「四国発信! ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」は、2023年度で終了しましたが、当室では引き続き四国5国立大学等と協働し、様々な女性研究者支援を行っています。



香川大学女性研究者の会

部局を超えて女性研究者が交流し、女性研究者の研究教育活動環境向上のための全学横断的な支援を考える場である女性研究者の会。10月31日(木)の昼休みに、「いま必要な女性研究者支援とは」をテーマにオンラインで意見交換を行いました。

国際学術雑誌論文投稿費・英文校閲費補助事業

女性リーダーの育成を目的として、女性研究者が研究成果を国際的な学術論文として発表するための外国語論文投稿費用ならびに英文校閲費用を補助しています。本補助採択者の国際的な評価となる研究業績を向上させるなど、研究者としての成長とスキルアップを期待し実施するものです。2024年度は、論文投稿1件、英文校閲3件の支援をしました。

D&I 推進共同研究制度

これまでの「四国発信! ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」で培ったネットワークや研究力を継続・発展させるために、女性研究者がチャレンジし活躍する場の拡大を目的とした制度です。今年度から、共同研究の対象を四国5国立大学に国内外の大学も加えており、2024年度は、8件の支援をしました。

女性研究者スタートアップ
研究環境整備事業

女性の若手研究者や研究リーダーの育成につなげることを目的とし、研究環境の整備に必要な経費的支援を行うものです。2024年度は10名の支援をし、その中で十川麗美特命助教(附属病院臨床遺伝ゲノム診療科)は、「第8回中国地域女性ビジネスプランコンテスト」で優秀賞を受賞され、さらに日本貿易振興機構(JETRO)「J-StarX Local to Global Success Program 2024」シリコンバレー派遣にも採択されました。

REPORT

香川大学ダイバーシティ&サイエンス理系選択応援プロジェクト

2023年度にJST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、2024年度も、香川県内外の企業や自治体と連携し、様々な事業を実施しました。その一部をご紹介します。

01 企業訪問 8.5(月) @アオイ電子(株)

最初に、人事課の山脇さんから、会社概要、半導体業界についての説明を受けました。続いて、青木人事課長の進行で、山本さん、澁谷さん、坂本さん、3名の女性技術者のキャリアトークを実施しました。中高時代のこと、理系進路を選択したきっかけ、大学での学部・学科選択と研究、現在の業務・やりがいなどについてお話をいただいた後、参加者との質疑応答が行われました。

最後に、半導体はクリーンルームの中で製造されていることからご準備いただいたスリッパに履き替え、設備開発工作室や製造工場を見学させていただきました。



02 サマースクール 8.9(金) @e-とぴあ・かがわ

前半のプログラミング体験では、講師の馬場先生によるチューリングパターン(生き物の体の模様などが数式を使って説明できる考え方)についての解説から始まり、実際に「スクラッチ」というプログラミング言語を使用しながら、生き物の模様を再現していききました。

後半のキャリアトークでは、吉岡さん(創造工学部)、錦織さん、横山さん、島さん、田中さん(創発科学研究科)の5名から、中高時代の勉強や部活の話、進路選択や受験、大学での研究やプライベートライフ、将来の進路や夢についてそれぞれお話をいただきました。



03 ラボ訪問 10.5(土) @四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

前半は、久保先生(同機構特命講師)から災害現場でドローンを活用している事例などを紹介していただいた後に、第2体育館内で、小型と中型の2種類のドローン操作体験をしました。その後、グラウンドに設置したネット内に移動し、久保先生が実際に大型ドローンを操縦する様子を見ながら、モニターでドローンから送られてくる映像を視聴しました。

後半のキャリアトークでは、久保先生を皮切りに、山田さん(創発科学研究科)、尾崎さん、阪村さん、神野さん(創造工学部)にお話をいただきました。



04 出前授業 12.9(月) @大野原中学校

観音寺市立大野原中学校の1年生を対象に実施しました。小宅先生(創造工学部助教)のご専門は、景観生態学であり、「どうして街の中に緑?」という問いから講義は始まりました。「草花があると気分が上がる」「季節感を味わいたい」「実は空気を綺麗にしている」と、生態系サービス(生物多様性から得られる恵み、生物やその棲家が人の暮らしにもたらしてくれる恵み)について解説してくださいました。

学生によるキャリアトークでは、安藤さん(創造工学部)から、将来の夢、中高時代のこと、香川大学で参加した学生プロジェクトに加え、進路については、迷う過程で、努力できればいいとの話がありました。



☆詳細は、特設HPをご覧ください☆



REPORT

ワーク・ライフ・バランス支援

01 研究補助者配置制度

研究補助者配置制度は、研究者が育児・介護等を理由に研究を断念することなく、研究と育児・介護等を両立させつつ、優れた研究を推進することができる環境をつくる目的で行っている制度です。2024年度は、10名の男女研究者にご利用いただきました。

02 入学試験における
休日出勤時の託児

入学試験における休日出勤時の教職員の負担軽減にむけて、3ヵ月から小学校6年生までの子どもの託児を無料で実施しています。2024年度は、11月23日(土・祝)の推薦入試と1月18・19日(土・日)の大学入学共通テストの託児を設定し、延べ4人のお子さんの受け入れをしました。

03 ベビーシッターの
利用費補助制度

こども家庭庁(公益社団法人全国保育サービス協会に委託)が実施する「ベビーシッター派遣事業」により、「ベビーシッター派遣事業割引券」を利用できる制度の他、ベビーシッター等で利用できる育児補助金制度「ベネフィット・ステーション」があります。

04 介護セミナー

2月19日(水)「介護セミナー」を415講義室(幸町キャンパス北4号館1階)にて、本学教育学部との共催で実施しました。高松市より、地域包括支援センター地域支援係 森永智光氏、ファーマシー薬局たかまつ 岡村リナ氏をお招きし、ご講演をいただきました。DVDを用いて認知症の方への望ましい対応事例を視聴した他、認知症の主な症状・それに至るまでの予防策、高松市の取り組み、受診・相談窓口などをお話いただきました。

アンケートより

- ◎認知症は誰にでも起こりうるものであるので、対応方法について学ぶことができてよかった。介護をするとき、1人で抱え込むのではなく、様々な人や機関と協力しながら関わっていくことが大切であると感じた。
- ◎認知症にどのような症状があるのかを詳しく知ることができて、周りの人が認知症になったときには今日学んだことをいかそうと思った。



森永氏・岡村氏(左から)

05 香川大学
出産・育児・介護支援ガイド

香川大学の出産・育児・介護支援制度について、わかりやすくまとめたリーフレットを作成しています。ぜひご利用ください。



06 定時にかえろう!

香川大学では、男女共同参画の基本方針に基づき、教職員が教育・研究等と育児・介護の両立を支援するため、下記の事項に配慮をしています。

1. 育児等に取り組む教職員が参加する会議は**夕方17:30以降**、できるだけ開催しないこと。
2. 育児等に取り組む教職員より申し出があった場合には、教育・研究活動以外の業務負担の軽減に努めること。
3. 育児等に取り組む教職員がやむを得ない事情により会議の欠席・早退・遅刻、業務の代替等を求める場合にはできる限りの配慮を行うこと。(授業・会議の時間帯調整、代理出席の配慮、出席を強制しないなど)

INFORMATION

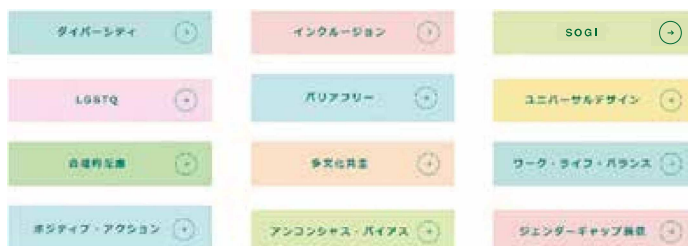
＊ 通称名や自認する性別の使用

2025年4月より、通称名に加え戸籍とは異なる自認する性別の使用を希望する場合は、所定の手続きによって変更ができるようになりました。また、証明書等の性別の記載についても、申し出により性別を記載せずに発行できる場合もあります。各種文書において、原則として不要な性別欄を削除するよう周知を図っています。



＊ D&I関連用語解説

D&Iに関する用語解説のページを当室のHPに設けました。D&Iについてさらに学びたい方には、D&Iマスター制度、D&I関連科目の履修を推奨します。



＊ D&Iスペース

幸町キャンパス北5号館1階、ダイバーシティ推進室とバリアフリー支援室の間に開設しています。D&Iについてちょっと話をしたい、イベントを開きたいといったことに使えるスペースです。ここでは、D&Iに関する資料や書籍を自由にご覧いただけます。ご利用の際は、事前に当室までお問い合わせください。



＊ 生理用品の配布

様々な理由で生理用品の入手がしづらい状況にある香川大学的女子学生を支援したいと個人の方や高松市からご寄付をいただきました。幸町キャンパス学生会館1階・北4号館の女子トイレ・ALL GENDERTイレ内に生理用品を置いてありますので、必要な方はご自由にお使いください。



D & I 相談窓口

D&I相談窓口は、香川大学に通う学生のみなさん、働く教職員のみなさんが利用できる窓口です。ここでは、本学のD&Iに関わる制度や仕組みについてのご相談をお受けします。どこに相談したらよいかわからない場合のご相談もお受けし、“コンシェルジュ”的な役割も担います。この窓口の他に、様々な相談窓口が学内外にありますので、そちらも併せてご利用ください。



編集・発行



香川大学 ダイバーシティ推進室

〒760-8521 香川県高松市幸町 1-1
幸町キャンパス北5号館1階
電話：087-832-1055（内線：1055）
FAX：087-832-1057
MAIL：diversity-i-h@kagawa-u.ac.jp
URL：https://www.kagawa-u.ac.jp/diversity/
本ニュースレターおよび本学のD&I推進についてのご意見・ご感想を当室までお寄せください。

D&I推進のためのご寄付のお願い

香川大学では、本学の教育研究の奨励を目的として、企業や個人等（寄附者）の方から寄附金を募りご支援をいただく制度を設けています。現物による寄付も歓迎いたします。詳しい手続きはこちらをご覧ください。https://www.kagawa-u.ac.jp/research/industrial/contribution/

相談窓口

ダイバーシティ推進室（D&I 相談窓口）

D&Iに関わる制度や仕組みについての相談や、どこに相談したらよいかわからない場合の相談を受け、“コンシェルジュ”的な役割も担います。また、学内外にはさまざまな相談窓口があります。



バリアフリー支援室



留学生センター



保健管理センター



学生支援センター（なんでも相談窓口）



参考

ダイバーシティ&インクルージョン
推進に向けてのガイドライン（全文）



香川大学 D&I 推進宣言・基本方針



ユニバーサルデザインマップ



香川大学

ダイバーシティ推進室

Office for the Promotion of Diversity

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 北5号館1階

tel/ 087-832-1055（内線1055）

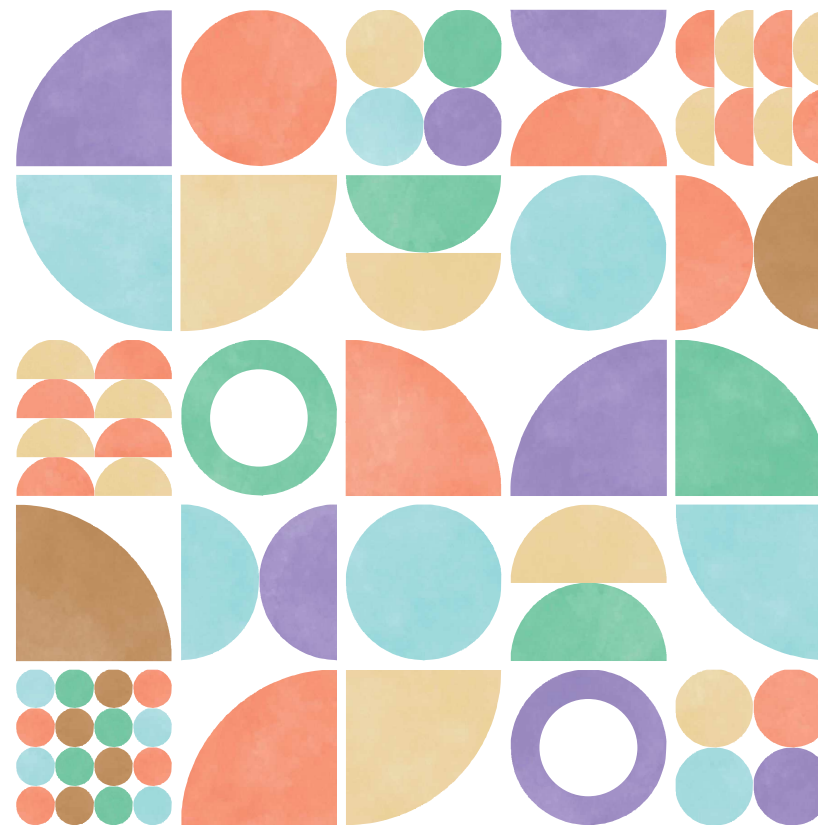
mail/ diversity-i-h@kagawa-u.ac.jp



2025年4月改訂

Guidelines for Promoting Diversity & Inclusion

ダイバーシティ&インクルージョン推進に向けてのガイドライン



香川大学は、構成員一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できる D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）を推進するため、「D&I 推進の基本方針」を策定し、男女共同参画、性の多様性の尊重、障害者支援、多文化共生の4分野のガイドラインを定めました。様々なバックグラウンドを有する構成員が安心・安全に学び、研究し、働くことのできる環境整備をめざしています。

D&Iとは？

D **ダイバーシティ**は、多様性を意味し、性別、性的指向（好きになる性）・性自認（心の性）、人種、国籍、民族、言語、宗教、障害、年齢、ライフスタイルなど幅広いものを含みます。

I **インクルージョン**は、包摂を意味し、個の違いを互いに尊重し、認め合い、連携・協働して、誰もが安心して活躍できる状態をいいます。

男女共同参画

地域との協働・連携、情報発信

女子学生、女性研究者、女性教職員へのキャリア形成支援

ワークライフバランスの実現

男女共同参画の阻害要因除去とハラスメントの禁止

学内での定期的なアンケートやヒアリング結果をもとに、男女共同参画の阻害要因を分析し、それを取り除くための具体的な施策立案を実施します。「国立大学法人香川大学ハラスメント及び性暴力等防止規則」の周知に努め、ハラスメントに関する教育・研修を強化し、相談体制の充実を図ります。



障害者支援

「不当な差別的取扱い」の禁止

「不当な差別的取扱い」に該当する行為については、個別の事案ごとに判断されることになります。例えば、正当な理由が存在しないにもかかわらず「障害があることを理由に授業の受講、研究指導、実習、研修、フィールドワーク等への参加を拒否する」、「障害があることを理由に説明会、シンポジウム等への出席を拒む」等の対応をすることは、「差別的取扱い」にあたります。

合理的配慮の提供

「合理的配慮」とは、障害者等の利用を想定して事前に行われる建築物のバリアフリー化、必要な人材の配置、情報アクセシビリティの向上等の環境整備を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される対応のことです。具体例としては、「移動に困難がある学生等のために、普段よく利用する教室に近い位置に駐車場を確保する、使用する教室をアクセスしやすい場所に変更する」等が挙げられます。

理解促進

教職員や学生等に対し、障害について理解を深めるため、研修および啓発活動を行います。さらに、障害のある学生を支援するピア・サポーターを養成するための研修を行います。

Check **ピア・サポーターとは**

大学においては、「学生による学生支援活動」の意味で用いられます。活動例としては、「車椅子の移動支援」、「ノートテイク（授業受講中の支援）」、「キャンパス内のバリアフリーの点検活動」などがあります。

香川大学の取り組み

性の多様性の尊重

個人情報保護の徹底

通称名や自認する性別の使用

通称名および戸籍とは異なる自認する性別の使用を希望する場合は所定の手続きによって変更ができます。



証明書等の性別の記載

性別が記載されることになっていても、申し出により性別を記載せずに発行することができる場合もあります。また、各種文書において、原則として不要な性別欄を削除するよう周知を図っています。

授業

性自認や性的指向等を理由に、学生が排除されたり、尊厳を傷つけられたりすることのないように配慮します。授業における呼称等は、要望に沿ったものとし、男女で呼称を使い分けられないことを推奨し、性別を基準とした不必要なグループ分けをしないよう周知を図ります。また、体育実技や学外実習においては、個別対応を行います。

異文化理解と地域の国際交流

異文化理解・多文化共生を主題にした授業科目を各学部開設しており、海外協定校留学・国際インターンシップ等の海外研修制度もあります。また、地域のステークホルダーと大学が連携して行うグローバル教育プログラムも実施しています。インターナショナルオフィス所属グローバル・カフェでは、多言語学習・異文化交流の機会を提供し、教職員・学生及び地域の国際交流を推進しています。

Check 各キャンパスに多目的室を設置しており、礼拝などに使用することが可能です。詳細はインターナショナルオフィス又は各学部事務室までお問い合わせください。

施設の整備

多目的トイレを「ALL GENDER トイレ」としても利用しやすいように、右記のようなサインをつけています。また、更衣室などの表示やマップ等の改善および使いやすい整備を進めます。



Check **性の多様性を尊重するために知っておきたいこと**

LGBT Lesbian、Gay、Bisexual、Transgenderの頭文字をとったもので、LGBは性的指向（好きになる性）を、Tは性自認（心の性）を表し、LGBTの枠に当てはまらない人もいます。

SOGI Sexual Orientation（性的指向）、Gender Identity（性自認）の頭文字をとったもので、私たち一人ひとりに固有のSOGIがあります。

アウティング 性自認・性的指向について本人の了解を得ずに暴露することをいい、パワー・ハラスメントに該当します。また、性自認・性的指向に関する偏見に基づく言動は、セクシュアル・ハラスメントにも該当します。

日本語を第一言語としない教職員および学生への支援

構成員の言語ニーズを踏まえた学内周知を実施しています。留学生には、生活面を支援するためのサポーター、学習・研究面での支援及び日本語指導等を行うチューターを配置しています。国際寮には、レジデンスチューターを配置し、留学生の生活支援、緊急時における対応及び、入居者間の交流促進に関する支援を行っています。

多文化共生

令和 6 年 10 月 8 日

「香川大学ダイバーシティ & インクルージョンフェスタ 2024」

D&I セミナーPart2 「LGBT から多様性や誰もが生きやすい社会を考える」を開催！

香川大学は、「D&I 推進宣言」をした 10 月に、学生・教職員を対象とした啓発イベント「香川大学 D&I フェスタ」を実施しており、今年で 3 回目の開催を迎えます。

今回のセミナーは、「LGBT から多様性や誰もが生きやすい社会を考える」というテーマで、LGBT を含めた多様な生き方を認め合い、子どもから大人までを優しく支え合う地域社会づくりを目指し、香川県を中心に活動されている「あしたプロジェクト」のお二人をゲストスピーカーとしてお招きして開催します。誰もが当てはまる SOGI という言葉を知っていますか？

グループワークも取り入れ、あしたプロジェクトのお二人、学生、教職員全員で、ヒトゴトではなく、自分軸で多様性や誰もが生きやすい社会とは何かを考えていきます。

つきましては、是非取材くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

D&I セミナーPart2 「LGBT から多様性や誰もが生きやすい社会を考える」

日時：令和6年10月30日（水）10:30～12:00

場所：香川大学331講義室（幸町北キャンパス 3 号館 3 階）

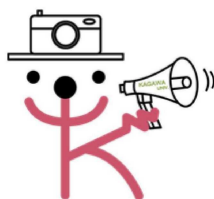
対象：本学学生・教職員

ゲストスピーカー：谷 昂頼 氏（あしたプロジェクト代表）

福井 瑞穂 氏（あしたプロジェクト副代表）

担当：小方 直幸 氏（香川大学副学長、教育学部教授）

※教育学部講義を全学に公開して開催します。



➤ お問い合わせ先

香川大学ダイバーシティ推進室 黒澤

TEL: 087-832-1055

E-mail: diversity-i-h@kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合 香川大学人事企画課 川池

TEL: 087-832-1307



Diversity & Inclusion

香川大学 ダイバーシティ & インクルージョン フェスタ2024

ダイバーシティ推進室は、本学が「D&I推進宣言」を行った10月を中心に、センター・関連部局と連携し、D&Iをさらに推進するため、全構成員(学生・教職員)を対象としたさまざまなイベントを開催します。ご参加いただいた方にはノベルティ(オリジナル文具)をプレゼント。
ぜひご参加ください!



D&Iセミナー Part1

10月9日|水| 対面・オンライン
13:30~15:00

講演会 どうしてやめられないんだろう?
～依存症から考えるこころの健康～

講師:野仲 和真氏(香川大学保健管理センター臨床心理士)

- 場所:多目的ホール
(幸町キャンパスオリーブスクエア2F)
- 対象:本学学生・教職員
- 定員:150名

*保健管理センター“ヘルストピックス講演会”を兼ねています。

D&Iランチトーク

10月23日|水| 対面
12:15~13:00

テーマ 多様性を考える前に
～自分を知れば、他人も見えてくる!～

話題提供者:野口 里美氏
(香川大学理事・副学長(企画・評価・ダイバーシティ担当))

- 場所:D&Iスペース
(幸町キャンパス北5号館1階)
- 対象:本学学生
- 定員:15名

D&Iセミナー Part2

10月30日|水| 対面
10:30~12:00

教育学部公開授業 LGBTから多様性や誰もが
生きやすい社会を考える

ゲストスピーカー:谷 昂頼氏(あしたプロジェクト代表)
福井 瑞穂氏(あしたプロジェクト副代表)
担当:小方 直幸氏(香川大学副学長、教育学部教授)

- 場所:331講義室
(幸町キャンパス北3号館3階)
- 対象:本学学生 ●定員:100名
・教職員

学生
企画

D&Iキャンパスプロジェクト Asterワークショップ

11月6日|水| 対面
13:00~14:30

テーマ 性の多様性について知ろう
～映画「カランコエの花」を通して気づくこと～

第1部 映画上映 第2部 意見交換会

コーディネーター:香川大学D&IキャンパスプロジェクトAsterメンバー

- 場所:421・422講義室
(幸町キャンパス北4号館2階)
- 対象:本学学生 ●定員:40名
・教職員

D&Iフェスタ関連イベント

- 車椅子講習会(バリアフリー支援室)
- グローバル・カフェ
(インターナショナルオフィス)

書籍展示「D&Iって何?」

D&I関連書籍を香川大学図書館 中央館2階で展示しています。
協力:香川大学図書館

- 主催:香川大学ダイバーシティ推進室
- 共催:香川大学バリアフリー支援室、インターナショナルオフィス、保健管理センター

問い合わせ 香川大学ダイバーシティ推進室 TEL:087-832-1055 E-mail:diversity-i-h@kagawa-u.ac.jp



申し込みフォーム
前日までにお申し込み下さい

D&IセミナーPart1

日時 10月9日(水) 13:30~15:00

場所 多目的ホール(ハイブリッド)

講演会

どうしてやめられないんだろう？

～依存症から考えるこころの健康～

ギャンブル依存、ネットゲーム依存、アルコール依存などの「依存症」は自分の意志では特定の行為や物質をやめることができない疾患です。しかし、一般的には「依存症」に関する正しい知識が得られていないことも多いため、「依存症」への偏見、差別があります。まずは、「依存症」について正しく理解することから始めませんか。

*保健管理センター「ヘルストピックス講演会」を兼ねています。

講師／野仲和真氏

(香川大学保健管理センター臨床心理士)

D&Iランチトーク

日時 10月23日(水) 12:15~13:00

場所 D&Iスペース

テーマ

多様性を考える前に

～自分を知れば、他人も見えてくる!～

サブパーソナリティ・ランプを使って自分自身の特性を発見し、自己理解を深めます。自分を受け入れることで、多様な他者を理解する第一歩を踏み出しましょう。グループワークを通じて楽しく気づきを得られる体験型のランチトークです。

*「サブパーソナリティ」とは、私たちが持つさまざまな性格や感情の「側面」



話題提供者／野口里美氏

(香川大学 理事・副学長
(企画・評価・ダイバーシティ担当))

D&IセミナーPart2

日時 10月30日(水) 10:30~12:00

場所 331講義室

教育学部公開授業

LGBTから多様性や

誰もが生きやすい社会を考える

誰もが当てはまるSOGIという言葉を知っていますか？ヒトゴトではなく、自分軸で多様性や誰もが生きやすい社会とは何か。地方在住トランスジェンダー当事者の私たちと一緒に考えましょう。

*あしたプロジェクトのお二人は2016年から高松市を中心に、啓発DVDの制作、学校・企業での講演会、相談事業など、幅広い活動を展開しています。

ゲストスピーカー／谷昂頼氏(あしたプロジェクト代表)

福井瑞穂氏(あしたプロジェクト副代表)

担当／小方直幸氏(香川大学副学長、教育学部教授)

D&Iキャンパスプロジェクト Asterワークショップ

日時 11月6日(水) 13:00~14:30

場所 421・422講義室

テーマ

性の多様性について知ろう

～映画「カランコエの花」を通して気づくこと～

第1部：映画上映 第2部：意見交換会

「LGBT」という言葉は世の中に浸透しつつありますが、どこか他人事のように感じている人もいないのでしょうか。今回は映画「カランコエの花」を鑑賞し、その後グループに分かれて意見交換会を行います。当事者・その周囲の人々の立場に立って「LGBT」について考えてみませんか。みなさんの参加をお待ちしています。

コーディネーター／香川大学D&Iキャンパス
プロジェクトAsterメンバー

「D&Iマスター制度」スタート

D&Iについて学ぶ機会を広く提供するもので、2024年4月からスタート！
マスター取得者には、修了証とダイバーシティ推進室特製グッズをプレゼント。
フェスタのイベント参加はマスター取得の要件の一つです。
D&Iマスターを目指してみませんか？

D&Iマスター制度▶



D&Iスペース オープンハウス (幸町キャンパス北5号館1階)

10月17・24日(木) 12:00~13:00、誰でも自由に出入り可能です。

D&Iに関する資料や書籍を自由にご覧いただける他、あしたプロジェクト作成のDVDを上映します。

評価事項：外部資金の獲得状況に関すること[中期目標・中期計画②]

1. 令和6年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

【反映状況】	優れている点	・ 特になし
	改善を要する点	・ 特になし
	今後に期待する点	・ 特になし

外部資金の獲得状況に関すること（第4期中期目標・中期計画②）

評価指標

外部資金の獲得状況について、毎年度、外部の有識者から意見を聴取し、評価結果を公表する。

達成水準

第4期最終年度の評価までに、外部委員から評価において「取組の効果による成果が認められる」こと。

R6年度ロードマップ

- 【取組①】第4期中期目標・中期計画期間においては、毎年度、外部資金の獲得強化に向けて科研費申請に関する説明会の開催、ガイドブックの作成、申請書のブラッシュアップを行う。
また、学長戦略経費による科研費基盤B以上の獲得件数増加に向けた支援を行う。
- 【取組②】共同研究及び受託研究において、本学研究者の学術的知見への対価（仮称「学術貢献費」）も受入可能とするよう、制度を見直す。
- 【取組③】学部等に対する教育研究活動の実績状況に基づく運営費配分制度を創設し、毎年度、評価指標に沿って予算配分を行う。



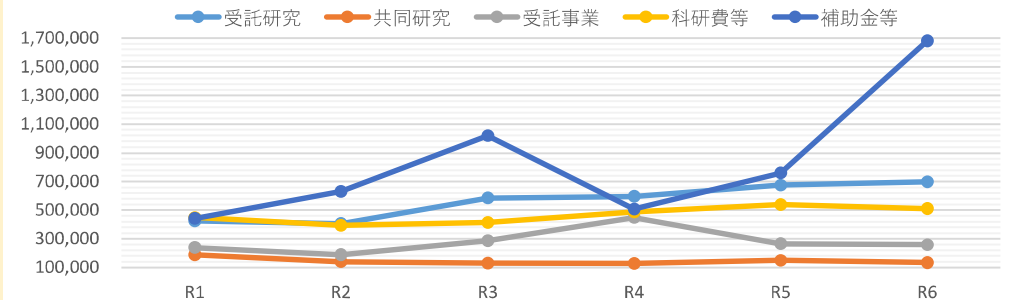
R6年度進捗状況・成果

- 【取組①】科研費申請に関する説明会、申請書のブラッシュアップを行い、39件新規採択された。また、学長戦略経費において、科研費基盤B以上の獲得強化のための支援事業及び科研費申請書レビュー支援を活用し、4件の新規採択につながった。
外部資金の獲得強化に向けた取組の結果、令和7年度科研費の採択件数と採択金額は、新規・継続合わせて348件、495,885千円で、前年度から9件の増加、20,930千円の増加となった。
- 【取組②】本学研究者の学術的知見への対価も受入可能とするよう、「学術貢献費」導入に向け検討を進めている。先行実施している他大学での導入状況調査を行うとともに、学内協議調整を行い大学の制度として整える準備を進めている。
また、令和5年5月1日付けで創設した学術・技術コンサルティング制度を活用し、令和6年度は12件、9,586千円を獲得した。これは前年度から6件の増加、8,170千円の増加となっている。
- 【取組③】外部資金獲得を推進するため、令和6年度当初予算において、学部等の教育研究活動の成果を予算に反映させる運営費配分制度（※）の評価指標に沿って予算配分を実施した。学部等の運営費配分に係る評価配分率を「80～120%」から「75～125%」に変更し、メリハリのある配分を行った。
※外部資金獲得のインセンティブとなるよう、文科省の評価指標の一部である科研費獲得額の伸び率や大学独自の間接経費獲得額の伸び率といった指標等に基づき、予算の配分を実施。

R1～R6 外部資金当期受入額の推移

（単位：千円）

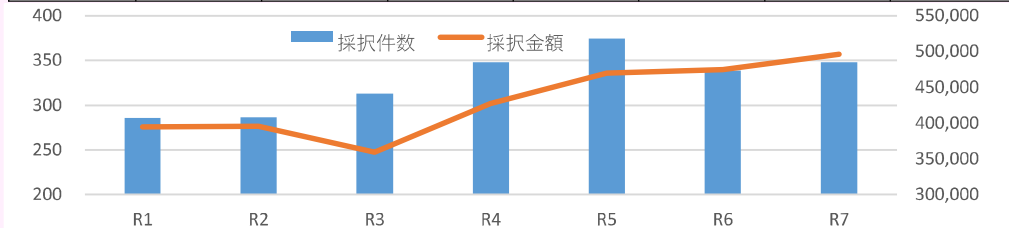
	R1	R2	R3	R4	R5	R6
受託研究	424,790	405,461	585,210	595,721	674,973	697,907
共同研究	187,912	138,846	128,028	126,311	149,515	133,023
受託事業	238,938	189,190	287,265	447,220	264,467	258,346
科研費等	448,083	393,861	413,290	488,336	538,922	510,632
補助金等	441,670	631,735	1,018,426	507,066	760,963	1,681,324
合計	1,741,393	1,759,093	2,432,219	2,164,654	2,388,840	3,281,232



R1～R7 科研費採択件数・採択額の推移

（単位：件・千円）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
採択件数	286	287	313	348	374	339	348
採択金額	394,810	395,850	359,385	427,830	469,755	474,955	495,885



国立大学法人香川大学諮問会議委員名簿

令和7年4月1日以降

職名	氏名	任期	備考
(株)百十四銀行取締役会長	綾田 裕次郎	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
高松市長	大西 秀人	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
徳島文理大学学長	梶山 博司	令和7年4月1日～令和7年9月30日	
香川県信用保証協会会長	西原 義一	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
帝國製薬(株)代表取締役社長	藤岡 実佐子	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
香川県教育委員会教育長	淀谷 圭三郎	令和5年10月1日～令和7年9月30日	

以上6名

○国立大学法人香川大学諮問会議規則

令和4年4月1日

改正 令和4年6月2日

(趣旨)

第1条 国立大学法人香川大学は、法人経営に学外の視点を積極的に取り入れ、管理運営の改善充実を図るために、国立大学法人香川大学諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、学長の諮問に応じて、経営上の課題についての検討と中期計画の達成状況の外部評価を行う。

(組織)

第3条 会議の委員は、国立大学法人香川大学経営協議会規則第2条第1項第3号に掲げる者及び法人経営の課題に関し広くかつ高い識見を有する学外者のうちから、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条の委員の任期は2年とし、再任することができる。ただし、委員の任期の末日は、当該委員を任命する学長の任期の末日以前とする。

(議長等)

第5条 会議に議長を置き、学長が指名する。

2 議長は、学長の要請にもとづき、会議を主宰する。

3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事)

第5条の2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 会議の事務は、企画総務部総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、令和４年４月１日から施行する。

附 則（令和４年６月２日）

この規則は、令和４年６月２日から施行する。

○国立大学法人香川大学諮問会議規則

令和4年4月1日

改正 令和4年6月2日

(趣旨)

第1条 国立大学法人香川大学は、法人経営に学外の視点を積極的に取り入れ、管理運営の改善充実を図るために、国立大学法人香川大学諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、学長の諮問に応じて、経営上の課題についての検討と中期計画の達成状況の外部評価を行う。

(組織)

第3条 会議の委員は、国立大学法人香川大学経営協議会規則第2条第1項第3号に掲げる者及び法人経営の課題に関し広くかつ高い識見を有する学外者のうちから、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条の委員の任期は2年とし、再任することができる。ただし、委員の任期の末日は、当該委員を任命する学長の任期の末日以前とする。

(議長等)

第5条 会議に議長を置き、学長が指名する。

2 議長は、学長の要請にもとづき、会議を主宰する。

3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事)

第5条の2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 会議の事務は、企画総務部総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、令和４年４月１日から施行する。

附 則（令和４年６月２日）

この規則は、令和４年６月２日から施行する。